

評価の考え方（案）

1 生物多様性	様々な生態系が存在すること 生物の種間および種内に様々な差異が存在すること																			
2 生物多様性の損失	その生態系における生物間の相互作用と生物と環境との相互作用や、その生態系を構成する種が保たれなくなることによって、生態系の多様性や種・遺伝子の多様性が減少すること。																			
3 評価の対象	生物多様性の損失の要因、損失への対策、損失の状態を対象とする。																			
3 - 1 損失の要因	生物多様性の損失を直接的に引き起こす要因による影響力の程度とその傾向。以下の要因がある。 ①第1の危機（開発・改変、直接的利用、水質汚濁） ②第2の危機（人間活動の縮小） ③第3の危機（外来種、化学物質） ④地球温暖化の危機（地球温暖化）																			
3 - 2 損失への対策	生物多様性の損失への対策																			
3 - 3 損失の状態	生物多様性の損失の程度とその傾向。以下の視点で捉える。 ①生態系の規模（生態系の物理的な広がり） ②生態系の質（生態系の構造や機能） ③生態系の連続性（生態系のまとまりや相互のつながり） ④種の個体数や分布（生態系を構成する種等の個体数や分布） ⑤生物資源の状況（特に資源として利用されている生態系や種についての①～④の視点）																			
4 評価の考え方																				
4 - 1 損失の要因の評価（第II章）	<p>損失の要因を示す指標（指標 1, 2, 3, 4, 7, 9, 10, 12）は、以下を評価する。</p> <p>○評価期間（1950年代後半から現在まで）に生物多様性に損失を与えた要因の影響力の大きさ</p> <p>○当該要因の影響力の長期的傾向と現在の傾向</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">評価対象</th> <th colspan="4">凡例</th> </tr> <tr> <th>弱い</th> <th>中程度</th> <th>強い</th> <th>非常に強い</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>影響力の大きさ</td> <td style="text-align: center;">○</td> <td style="text-align: center;">●</td> <td style="text-align: center;">●</td> <td style="text-align: center;">●</td> </tr> <tr> <td>影響力の傾向</td> <td style="text-align: center;">↘</td> <td style="text-align: center;">→</td> <td style="text-align: center;">↗</td> <td style="text-align: center;">⚡</td> </tr> </tbody> </table> <p>注：影響力の大きさの評価の破線表示は情報が十分ではないことを示す。</p>	評価対象	凡例				弱い	中程度	強い	非常に強い	影響力の大きさ	○	●	●	●	影響力の傾向	↘	→	↗	⚡
評価対象	凡例																			
	弱い	中程度	強い	非常に強い																
影響力の大きさ	○	●	●	●																
影響力の傾向	↘	→	↗	⚡																
4 - 2 対策の評価（第II章）	<p>対策または対策の基盤を示す指標（指標 5, 6, 8, 11, 13, 14）は、以下を評価する。</p> <p>○評価期間内の対策の長期的傾向と現在の傾向</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>評価対象</th> <th colspan="3">凡例</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">対策の傾向</td> <th>増加</th> <th>横ばい</th> <th>減少</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">↗</td> <td style="text-align: center;">→</td> <td style="text-align: center;">↘</td> </tr> </tbody> </table> <p>注：対策の効果について必要な事項は文章で記述する。</p>	評価対象	凡例			対策の傾向	増加	横ばい	減少		↗	→	↘							
評価対象	凡例																			
対策の傾向	増加	横ばい	減少																	
		↗	→	↘																

4-3
損失の状態の評価（第III章）

損失の状態を示す指標（指標 15～30）は、以下を評価する。
○評価期間当初（1950年代後半）の生態系と生物相の状態からの損失の大きさ。
○損失の長期的傾向と現在の傾向。

評価対象	凡例			
損失の大きさ	損なわれていない	やや損なわれている	損なわれている	大きく損なわれている
状態の傾向	回復	横ばい	損失	急速な損失

注：損失の大きさの評価の破線表示は情報が十分ではないことを示す。

4-4
総合的な評価（第IV章第1節）

総合的な評価は、損失の要因（第1の危機、第2の危機、第3の危機、地球温暖化の危機）と損失の状態について、生態系区分別に、以下を評価する。

要因の評価

○評価期間（1950年代後半から現在まで）に生物多様性に損失を与えた要因の影響力の大きさ。
○当該要因の影響力の現在の傾向。

評価対象	凡例			
影響力の大きさ	弱い	中程度	強い	非常に強い
影響力の傾向	減少	横ばい	増大	急速な増大

注：影響力の大きさの評価の破線表示は情報が十分ではないことを示す。

状態の評価

○評価期間当初（1950年代後半）の生態系の状態からの損失の大きさ。これに加えて、本来の生態系の状態からの損失の大きさも評価する。

○現在の損失の傾向。

評価対象	凡例			
損失の大きさ	損なわれていない	やや損なわれている	損なわれている	大きく損なわれている
状態の傾向	回復	横ばい	損失	急速な損失

注：損失の大きさの評価の破線表示は情報が十分ではないことを示す。